

日本小児感染症学会若手会員研修会第6回瀬戸内セミナー

## 夏季セミナー in 瀬戸内～現地事務局を代表して

小 田 慈\*

2015年の若手会員研修セミナーは、全国各地の若手会員の参加のための便宜を図るためにも、一度、舞台を西日本に移し岡山近郊で開催しようと、昨年の磐梯熱海での第5回セミナーのあと、委員会委員一同相談のうえ決まりました。岡山近郊で、参加された若手会員の思い出に残る場所…、と考えた末、瀬戸内海国立公園のなかの鷺羽山近くの、せとうち児島ホテルでと決断するまで、そんなに時間はかかりませんでした。

すぐに手配に入りました。セミナーの開催場所にはいくつかの条件があります。まず、夜を徹して、メンバーがわいわいしながら発表の準備ができるスペース、参加者全員がお土産をもち寄って宴会ができるスペース（食べ物、飲み物のもち込みに文句をいわずに許してくれる宿泊施設）、温泉が備わっていること、朝の散歩コースが近隣にあること、などなどです。この条件を備え、支配人が全部飲み込んでくれなければ、セミナー会場として選ぶわけにはいきません。ホテルのロビーを訪れ計画を説明すると、幸いにも一発で、こちらの条件をすべて飲んでくれました。

これで会場準備はO.K.です。あとは、現地のメンバーの体制です。岡山大学小児科の感染症グループのメンバーに加え、川崎医科大学の尾内先生、中野先生にも、現地スタッフとして参加してもらおうということになり、お願いをしたところ、お2人とも快諾していただきました。さらに前学会理事長の岡山大学名誉教授の森島先生も参加していただけるということになり、地元メンバー一同、張り切って、9月12日を迎えました。

1名の若手参加者の止むを得ない事情によるドタキャンがありましたが、スタッフ11名、今回から新たに加わった junior tutor 6名、若手会員35名、地元スタッフ6名、総計約60名によるセミナーが予定通りスタートしました。

3つのレクチャー、慣例の“お宅どお？”，そしてグループワークなどなど、穏やかな、楽しい、かつ熱心な雰囲気の中かでセミナーは進んでいきました。賑やかな夕食パーティ、懇親会のあと、かなり遅くまで発表の準備をしたグループがあったのも例年通りです。

13日の朝は慣例の森内委員長を中心に早朝散歩、そして朝食の後、グループ発表が行われました。6つのグループがそれぞれのテーマに沿って、工夫を凝らした素晴らしい発表を披露してくれました。今回も“over 50's”による評価により、各賞、そして最優秀賞が贈呈されました。内容については他稿に譲りたいと思います。

今回も若手参加者の間には、将来につながる固い絆ができたと思います。このことが、本セミナーの最大のメリットと感じています。

今回のセミナー開催にあたって、ご協力いただいた諸先生方、全国各地から参加して下さった若手会員の方々に心からお礼申しあげます。私は、今年3月をもって岡山大学を定年退官し、本学会も役職は定年となりました。本学会のますますの発展をお祈りするとともに、今まで、ご交流、ご指導いただいた先生方に心からお礼申しあげます。今後とも、末永くよろしくお願い申しあげます。

\* 岡山大学